

科目	文章理解	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	名文読解や随筆読解をとおして文章理解を深める。							
内 容								
1	文章理解①							
2	文章理解②							
3	文章理解③							
4	文章理解④							
5	文章理解⑤							
6	文章理解⑥							
7	文章理解⑦							
8	文章理解⑧							
9	文章理解⑨							
10	文章理解⑩							
11	文章理解⑪							
12	文章理解⑫							
13	文章理解⑬							
14	文章理解⑭							
15	文章理解⑮							
16	定期試験							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
配布資料								
					担当講師	和田 浩子		

科目	文章実務	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	文章作成を通してさまざまな実務文書作成が行えるようになる。							
内 容								
1	文章実務①							
2	文章実務②							
3	文章実務③							
4	文章実務④							
5	文章実務⑤							
6	文章実務⑥							
7	文章実務⑦							
8	文章実務⑧							
9	文章実務⑨							
10	文章実務⑩							
11	文章実務⑪							
12	文章実務⑫							
13	文章実務⑬							
14	文章実務⑭							
15	文章実務⑮							
16	定期試験							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
配布資料								
					担当講師	和田 浩子		

科目	政治経済学			必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)	
目 標	直近のニュースソースである日本の政治と経済の時事に関する問題について、その背景にある論理や構造を読み解き、時代や社会から求められているニーズを把握できる人材の養成を目指す。										
内 容											
1	オリエンテーション	授業の進め方									
2	18歳成人	感染拡大と変異株									
3	日本の領土問題	遺伝子工学とワクチン開発									
4	核兵器禁止条約	雇用保険から生活保護まで									
5	緊急事態宣言	日本の男女格差									
6	SDG s	日本の食料自給率は低い？									
7	日本の人口問題	老後資金は必要？									
8	日本の景気2021	個人情報と身分証明									
9	日銀の金融緩和政策	雇用形態と商習慣									
10	MMT (現代貨幣理論)	CO2排出ゼロへの道									
11	国債	エネルギー新時代									
12	円高と円安	次世代のエコカーとは									
13	実質賃金	ディープラーニングの活用									
14	前期総まとめ	前期総まとめ									
15	前期試験	前期試験									
16	前期試験講評	前期試験講評									
評 価											
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある											
教 材											
「2022→2023 図解 まるわかり時事用語」 (ニュース・リテラシー研究所編 新星出版社) 「最新図説 政経」 (浜島書店) 「政治・経済の必修整理ノート」 (文栄堂編集部編 文英堂) その他配布資料、資料動画視聴											
							担当講師	太田 敦			

科目	現代社会	必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	時間 数 (単 位 数)	32 (2)	
目 標	現在進行形で起きている事実を題材として、現代の社会を生き抜くうえで必要な知識を学び、自ら考え出したアイデアを実践できる行動力を持つ人材の養成を目指す。								
内 容									
1	オリエンテーション	授業の進め方							
2	新型コロナウイルス	感染拡大と変異株							
3	新型コロナワクチン	遺伝子工学とワクチン開発							
4	コロナ危機のセーフティネット	雇用保険から生活保護まで							
5	男女の格差	日本の男女格差							
6	食料自給率	日本の食料自給率は低い？							
7	日本の年金制度	老後資金は必要？							
8	マイナンバーカード	個人情報と身分証明							
9	テレワーク	雇用形態と商習慣							
10	地球温暖化	CO2排出ゼロへの道							
11	再生可能エネルギー	エネルギー新時代							
12	EVシフトとFCV	次世代のエコカーとは							
13	AI (人口知能)	ディープラーニングの活用							
14	前期総まとめ	前期総まとめ							
15	前期試験	前期試験							
16	前期試験講評	前期試験講評							
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
「2022→2023 図解 まるわかり時事用語」 (ニュース・リテラシー研究所編 新星出版社) 「最新図説 政経」 (浜島書店) 「政治・経済の必整理ノート」 (文栄堂編集部編 文英堂) その他配布資料、資料動画視聴									
						担当講師	太田 敦		

科目	生物学			必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	人体を理解するため、中学・高等学校の「生物基礎・生物(旧課程：生物Ⅰ・生物Ⅱ)」の内容の特に人体に関する事項に絞り、細胞の仕組みから、遺伝、反応、恒常性についての基礎的な理解を深める。									
内 容										
1	イントロダクション	生物に必要な基本の用語・単位								
2	第1章	細胞のしくみ								
3	第2章	細胞のはたらき								
4	〃	遺伝のしくみ								
5	第3章	刺激の伝達の仕組み								
6	第4章	視覚・聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚								
7	第5章	体液の恒常性								
8	〃	生体防御のしくみ								
9	〃	循環器系のしくみ								
10	〃	呼吸器系のしくみ								
11	〃	排泄や吸収のしくみ								
12	〃	内分泌系のしくみ								
13	〃	生殖器系のしくみ								
14	〃	体温のしくみ								
15	〃	神経のしくみ								
16	定期試験									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
看護に必要な やりなおし生物化学 照林社										
						担当講師	会田 夏希			

科目	保健体育	必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	時間 数 (単 位 数)	32 (2)
目 標	健康に対する幅広い理解と生涯にわたる応用力を養う。 加えて、専門的な運動実践法を学ぶ。							
内 容								
1	オリエンテーション (授業の概要) ・体力づく							
2	心身の発達の特徴と運動 p1-10							
3	文化としてのスポーツ p11-26							
4	健康・体力のための運動 p27-38							
5	運動の科学 (生理学) p40-57							
6	運動の科学 (力学) p58-70							
7	運動の科学 (心理学) p71-84							
8	運動の種類、技術の構造 p85-103							
9	各種スポーツの練習法 p104-111							
10	運動の練習と安全対策 p182-187							
11	スポーツ事故・救急処置 p188-202							
12	社会生活と体育 p203-245							
13	性とスポーツ p246-263							
14	栄養と健康 p264-280							
15	定期試験							
16	答案返却、総まとめ							
評 価								
出席率と学科試験、実技試験及び授業態度から総合的に評価する。								
教 材								
保健体育教本(浅田隆夫編・学術図書出版社)								
						担当講師	駒崎秀雄	

科目	英語	必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	患者とのやり取りは大きく2つのタイプに分けられる。一つは患者への質問、もう一つは患者に指示や説明をすることである。日本在住の外国人が急増している今、医療スタッフにとって外国人患者との意思の疎通を図れることは重要な責務の一つになっている。ここでは中学英語の基礎を復習した後、医療英語や医療英単語、簡単な会話のやり取りなどを学習していく。							
内 容								
1	イントロダクション							
2	Body Parts①							
3	Body Parts②							
4	Body Parts③							
5	Bones							
6	Muscles							
7	Joints							
8	医療英語の成り立ち							
9	英会話表現①							
10	英会話表現②							
11	英会話表現③							
12	英会話表現④							
13	英会話表現⑤							
14	英会話表現⑥							
15	総括							
16	定期試験							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
鍼灸マッサージ師のための英会話ハンドブック 医道の日本社								
					担当講師	会田 夏希		

科目	運動学	必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	<p>人体の各種の運動は骨格と骨格筋の共同作業により行われるため、人体の動きを知るための基礎として骨格と筋肉を学ぶ。運動学は身体運動の仕組みに関する学問であり、鍼灸師にとって基盤をなす科目のひとつである。人体の構造及び身体運動を理解する上で必要な運動器(筋骨格)の基本構造と機能を学ぶ。</p>							
内 容								
1	第1章 概論							
2	人体の組成について							
3	体表構造について							
4	第10章 I 総論							
5	骨格系							
6	筋系							
7	II 全身の骨格							
8	上肢の骨格							
9	下肢の骨格							
10	脊柱							
11	胸郭							
12	上肢の筋肉							
13	下肢の筋肉							
14	体幹の筋肉							
15	まとめ(骨格系・筋系)							
16	定期試験							
評 価								
出席と授業態度、試験等から総合的に評価する								
教 材								
解剖学(東洋療法学校協会編)の教科書、プリント								
					担当講師	今井佳江		

科目	解剖学 I	必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	医療の専門職を目指す学生が、解剖学の基礎である人体を構成する細胞・組織・皮膚(体表構造)人体区分について学び、人体の構造について知識を深める。							
内 容								
1	第1章 人体の構成							
2	1. 細胞							
3	細胞の構造							
4	細胞分裂と遺伝子							
5	2. 組織							
6	上皮組織							
7	結合組織							
8	筋組織							
9	神経組織							
10	3. 体表構造							
11	皮膚の表面積							
12	皮膚の構造							
13	皮膚の神経・血管							
14	毛・爪・皮膚腺							
15	4. 人体の区分と方向							
16	定期試験							
評 価								
出席と授業態度、試験等から総合的に評価する								
教 材								
解剖学(東洋療法学校協会編)の教科書、プリント								
						担当講師	今井佳江	

科目	生理学 I			必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	64 (4)
【実務経験のある教員等による授業科目】										
目 標	医学の基礎を構成する生理学では人体の機能と生命現象について学びます。実際の訪問鍼灸施術での臨床経験を活かして人体を構成する最小構成要素である、細胞の基本構造と機能について学び、細胞によって諸臓器が構成され、その諸器官の機能とそれらを支配する神経系(自律神経)の働きについて実際の患者ではどのように肉眼で観察することができるのかという教育をおこなっていきます。									
内 容										
1	生理学の基礎	生理機能、細胞の構造と機能	17	筋	骨格筋の構造と働き					
2	〃	物質代謝、体液の組成と働き	18	〃	筋収縮・エネルギー供給の仕組み					
3	〃	物質移動	19	〃	心筋と平滑筋					
4	神経	神経細胞の構造と働き	20	運動	骨格筋の神経支配、運動調節					
5	〃	神経線維の興奮の伝導	21	〃	運動調節					
6	〃	シナプス伝達	22	〃	錐体路・錐体外路、発語					
7	〃	中枢神経系の分類と機能	23	感覚	感覚分類、一般的性質					
8	〃	反射と脊髄	24	〃	体性感覚、内臓感覚					
9	〃	脊髄	25	〃	痛覚					
10	〃	脳幹、小脳、視床	26	〃	味覚・嗅覚、聴覚					
11	〃	視床下部、大脳	27	〃	平衡感覚、視覚					
12	〃	大脳	28	生体の防御機構	生体防御、免疫反応					
13	〃	脳脊髄液、末梢神経系	29	身体活動の協調	生体の適応、恒常性の維持					
14	〃	自律神経系	30	〃	バイオリズム					
15	定期試験		31	定期試験						
16	総括	定期試験解答・解説	32	総括	定期試験解答・解説					
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
生理学 医歯薬出版株式会社										
					担当講師	荻野 修平				

科目	はりきゅう理論 I	必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32(2)
【実務経験のある教員等による授業科目】								
目 標	はりきゅうを道具として治療を行う鍼灸師として必要な知識・理論・技法・リスク管理を学ぶ。近年補完代替医療として注目されている鍼灸の治効理論を学び、実践に役立てる。							
内 容								
1	第1章 概論							
2	1. 鍼灸施術の定義							
3	2. 鍼灸治療の特徴							
4	第2章 鍼の基礎知識							
5	1. 用具—鍼と鍼管							
6	2. 古代九鍼							
7	第3章 刺鍼の方式と術式							
8	1. 刺鍼の方式・術式							
9	2. 刺鍼中の手技							
10	第4章 特殊鍼法							
11	1. 小児鍼・皮内鍼法・円皮鍼法							
12	2. 灸頭鍼法・低周波鍼通電療法							
13	第5章 灸の基礎知識							
14	第6章 灸術の種類							
15	定期試験							
16	はりきゅう理論 I 総括							
評 価								
出席と授業態度、試験等から総合的に評価する								
教 材								
はりきゅう理論(東洋療法学校協会編)の教科書、プリント								
担当講師					今井佳江			

科目	はりきゅう理論Ⅱ	必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32(2)
【実務経験のある教員等による授業科目】								
	はりきゅうを道具として治療を行う鍼灸師として必要な知識・理論・技法・リスク管理を学ぶ。近年補完代替医療として注目されている鍼灸の治効理論を学び、実践に役立てる。							
内 容								
1	第7章 リスク管理							
2	1. 安全対策の基本							
3	2. 感染対策・有害事象の種類と対処法							
4	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識							
5	1. 生体の調節・感覚							
6	2. 熱傷（炎症）							
7	3. 体表の反応							
8	第9章 鍼灸治効機序							
9	1. 鍼鎮痛							
10	循環系・運動系と鍼							
11	3. 消化器系・泌尿器系と鍼							
12	4. リラクゼーションと鍼灸・生体防御系と鍼灸							
13	第10章 鍼灸治効機序と臨床の接点							
14	1. 鍼灸刺激による治効機序							
15	定期試験							
16	はりきゅう理論Ⅱ総括							
評 価								
出席と授業態度、試験等から総合的に評価する								
教 材								
はりきゅう理論（東洋療法学校協会編）の教科書、プリント								
担当講師						今井佳江		

科目	東洋医学概論			必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	時間 数 (単 位 数)	64(4)		
目 標	東洋医学の基本的な考え方・特徴・思想を理解する、また、西洋医学との違いを理解し、臨床で生かせるようにする。											
内 容												
1	第1章 東洋医学の特徴	17	第2章 生理と病理	18	第1節 生植物質と神	19	第2節 蔵象	20	第3節 経絡	21	第4節 病因病機	
2	第1節 東洋医学の沿革 東洋医学の歴史	18	第1節 望診	23	I 神について	24	II 色 III 形 IV 態	25	V 舌診 (舌神・舌色・舌形・舌態等)	26	第2節 聞診	
3	東洋医学の成立と発展	19	第2節 聞診	27	I 声診 II 五音 III 五声 IV 呼吸等	28	第3節 問診	29	問診の進め方 (主訴)	30	基本的問診事項 (寒熱等)	
4	日本における東洋医学の歴史と日中交流	20	第3節 問診	31	その他の問診事項	32	身体各部の症状	31	第4節 切診	反応・腹診・切経・脈診・四診合参	32	定期試験
5	第2節 人体の見方 人と自然の統一性	21	第4章 四診	31	反応・腹診・切経・脈診・四診合参	32	定期試験	32	定期試験			
6	虚実と標本	22	第1節 望診	31	反応・腹診・切経・脈診・四診合参	32	定期試験	32	定期試験			
7	第3節 東洋医学的治療 治療論	23	第2節 聞診	31	反応・腹診・切経・脈診・四診合参	32	定期試験	32	定期試験			
8	治療法	24	第3節 問診	31	反応・腹診・切経・脈診・四診合参	32	定期試験	32	定期試験			
9	第4節 日本の東洋医学の現状 資格の特殊性	25	第4節 切診	31	反応・腹診・切経・脈診・四診合参	32	定期試験	32	定期試験			
10	東西両医学の違い	26	第1節 望診	31	反応・腹診・切経・脈診・四診合参	32	定期試験	32	定期試験			
11	東洋医学的な視点の重要性・多様性	27	第2節 聞診	31	反応・腹診・切経・脈診・四診合参	32	定期試験	32	定期試験			
12	日本の伝統的鍼灸の特徴と中医学	28	第3節 問診	31	反応・腹診・切経・脈診・四診合参	32	定期試験	32	定期試験			
13	第3章 東洋医学の思想 陰陽学説	29	第4節 切診	31	反応・腹診・切経・脈診・四診合参	32	定期試験	32	定期試験			
14	人体の五行	30	第1節 望診	31	反応・腹診・切経・脈診・四診合参	32	定期試験	32	定期試験			
15	飲食物の五行	31	第2節 聞診	31	反応・腹診・切経・脈診・四診合参	32	定期試験	32	定期試験			
16	定期試験	32	第3節 問診	31	反応・腹診・切経・脈診・四診合参	32	定期試験	32	定期試験			
評 価												
出席と授業態度、試験等から総合的に評価する												
教 材												
東洋医学概論(東洋療法学校協会編)の教科書、プリント												
							担当講師	今井佳江				

科目	病態生理学	必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)	
目 標	疾病の発生機序、体内での変化の過程を理解し適切な施術が行えるよう、患者の現状を正しく理解できるようになる。また、適切病態把握の治療部位を導き出せるように症例検討を行い、施術における一連の流れをイメージする。								
内 容									
1	鍼と生理学①								
2	鍼と生理学②								
3	外傷学①								
4	外傷学②								
5	外傷学③								
6	外傷学④								
7	鍼灸治療に必要な病態把握と東洋医学の活用①								
8	鍼灸治療に必要な病態把握と東洋医学の活用②								
9	痛みのメカニズム								
10	臨床における鑑別法								
11	ケーススタディー (肩関節周囲炎①)								
12	ケーススタディー (肩関節周囲炎②)								
13	ケーススタディー (病態評価と生理学的な思考)								
14	ケーススタディー (論文を読み解く①)								
15	ケーススタディー (論理解②)								
16	効果判定								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
解剖学・生理学・東洋医学概論・経絡経穴概論 配布資料									
						担当講師	今井佳江		

科目	生体観察学	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	頭頸部・体幹・上肢筋・骨盤・下肢筋の起始停止を確認し、目的の筋を動かし、鍼灸施術に応用する。また、鍼灸施術を行う上で、目的の筋に刺鍼できるように的確な触察能力を身につけることを目標にする。							
内 容								
1	生体観察の意義							
2	体幹部（頸椎、胸椎、腰椎、仙骨）							
3	体幹部（胸骨、肋骨）							
4	上肢部（肩甲骨、鎖骨）							
5	上肢部（上肢帯周囲）							
6	上肢部（上腕骨、橈骨、尺骨）							
7	上肢部（手根骨）							
8	上肢の復習							
9	下肢部（寛骨）							
10	下肢部（大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨）							
11	下肢部（下肢帯周囲）							
12	下肢の復習							
13	頭部							
14	顔面部							
15	総括							
16	効果判定							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
解剖学・生理学・東洋医学概論・経絡経穴概論 配布資料								
						担当講師	今井佳江	

科目	はりきゅう実技基礎	必修	履修 学年	1	授業 の 方法	実習	時間 数 (単 位 数)	64(2)	
【実務経験のある教員等による授業科目】									
目 標	はりの臨床につながる基礎（消毒法、刺入法、手技）を繰り返し徹底的に学ぶ。安全に施術する方法を学ぶ。								
内 容									
1	第1章 基礎実習	17	他体練習(腰背部)						
2	消毒法	18	" (腰背部)						
3	施術用具の取り扱いと管理	19	" (腰部・下肢)						
4	清潔保持	20	" (腰部・下肢)						
5	鍼の基本実技	21	" (背部・肩部)						
6	刺鍼の方法	22	" (背部・肩部)						
7	刺鍼の角度	23	" (頸肩部)						
8	刺鍼中の手技	24	" (頸肩部)						
9	十七手技	25	" (上腕・前腕部)						
10	自体練習(下肢)	26	" (上腕・前腕部)						
11	他体練習(下肢)	27	" (上腹・下腹)						
12	" (下肢)	28	" (上腹・下腹)						
13	" (上肢)	29	" (下腹・下肢)						
14	" (背部)	30	" (下腹・下肢)						
15	" (腰部)	31	" (全体治療)						
16	定期試験	32	定期試験						
評 価									
出席と授業態度、試験等から総合的に評価する									
教 材									
東洋医学概論(東洋療法学校協会編)の教科書、プリント									
						担当講師	今井佳江		

科目	はりきゅう応用実技 I			必修	履修 学年	1	授業の 方法	実習	時間 数 (単位 数)	64(2)	
【実務経験のある教員等による授業科目】											
目 標	はりきゅう実技の基礎を基本として、鍼灸治療の応用を学ぶ。										
内 容											
1	オリエンテーション、授業説明	17	奇経治療	2	各種療法について	18	奇経治療	3	子育て支援鍼灸 (baby acu.) 鍧鍼	19	ほうろく灸
4	子育て支援鍼灸 (kids acu.) 鍧鍼	20	ほうろく灸	5	子育て支援鍼灸 (障害児鍼灸) 鍧鍼	21	ITS鍼灸	6	スポーツ鍼灸 (パイオネックス)	22	ITS鍼灸
7	スポーツ鍼灸 (パイオネックス)	23	ITS鍼灸	8	女性鍼灸 (アロマ灸)	24	グリーフケア鍼灸	9	女性鍼灸 (アロマ灸)	25	グリーフケア鍼灸
10	女性鍼灸 (アロマ灸)	26	グリーフケア鍼灸	11	高齢者鍼灸 (温灸)	27	レスパイトケア鍼灸	12	高齢者鍼灸 (温灸)	28	レスパイトケア鍼灸
13	高齢者鍼灸 (温灸)	29	レスパイトケア鍼灸	14	腹部ローラー鍼	30	リラクゼーション鍼灸	15	背部ローラー鍼	31	リラクゼーション鍼灸
16	定期試験	32	定期試験								
評 価											
出席と授業態度、試験等から総合的に評価する											
教 材											
経絡経穴概論(東洋療法学校協会編)の教科書、プリント											
						担当講師	今井佳江				

科目	はりきゅう治療実技 I			必修	履修 学年	1	授業 の 方法	実習	時間 数 (単位 数)	64(2)
【実務経験のある教員等による授業科目】										
目 標	基本練習を踏まえて正しい施灸方法を体得する。身体各部位に安全に施灸できるようにする。									
内 容										
1	オリエンテーション (授業説明、注意点)	17	基本練習 (点火・無点火)、下腿の施灸、注意点							
2	教科書 (はりきゅう実技基礎編) での実技確認	18	基本練習 (点火・無点火)、下腿の施灸、注意事項							
3	基本練習 (無点火)、注意事項	19	基本練習 (点火・無点火)、内果・外果の施灸、注意事項							
4	基本練習 (無点火)、注意事項	20	基本練習 (点火・無点火)、膝蓋骨周辺の施灸、注意事項							
5	基本練習 (無点火)、測定 (効果判定)	21	基本練習 (点火・無点火)、上肢の施灸、注意事項							
6	基本練習 (点火・無点火)、注意事項	22	基本練習 (点火・無点火)、上肢の施灸、注意事項							
7	基本練習 (点火・無点火)、注意事項	23	基本練習 (点火・無点火)、腰部の施灸、注意事項							
8	基本練習 (点火・無点火)、測定 (効果判定)	24	基本練習 (点火・無点火)、腰部の施灸、注意事項							
9	基本練習 (点火・無点火)、失眠穴への施灸、注意事項	25	基本練習 (点火・無点火)、腰部の施灸、注意事項							
10	基本練習 (点火・無点火)、失眠穴への施灸、注意事項、	26	基本練習 (点火・無点火)、腰背部の施灸、注意事項							
11	基本練習 (点火・無点火)、測定 (効果判定)	27	基本練習 (点火・無点火)、腰背部の施灸、注意事項							
12	基本練習 (点火・無点火)、足三里穴への施灸、注意事項	28	基本練習 (点火・無点火)、腰背部の施灸、注意事項							
13	基本練習 (点火・無点火)、足三里穴への施灸、注意事項	29	基本練習 (点火・無点火)、腹部の施灸、注意事項							
14	基本練習 (点火・無点火)、曲池穴への施灸、注意事項	30	基本練習 (点火・無点火)、腹部の施灸、注意事項							
15	基本練習 (点火・無点火)、曲池穴への施灸、注意事項	31	基本練習 (点火・無点火)、腹部の施灸、注意事項							
16	実技試験	32	実技試験							
評 価										
出席と授業態度、試験等から総合的に評価する										
教 材										
はりきゅう実技基礎編 (東洋療法学校協会編) の教科書、プリント										
						担当講師	今井佳江			

科目	臨床実習基礎	必修	履修 学年	1	授業 の 方法	実習	時間 数 (単 位 数)	46 (1)
【実務経験のある教員等による授業科目】								
目 標	はりきゅう実技を臨床に活用するための専門知識と基本技術、医療人としての倫理を身につける。							
内 容								
1	臨床実習に必要な基礎知識							
2	臨床実習に必要な基礎技術							
3	タオルワーク							
4	臨床に必要な患者対応							
5	臨床実習基礎 (運動器)、注意事項							
6	臨床実習基礎 (運動器)、注意事項							
7	臨床実習基礎 (運動器)、注意事項							
8	臨床実習基礎 (消化器)、注意事項							
9	臨床実習基礎 (消化器)、注意事項							
10	臨床実習基礎 (泌尿器)、注意事項							
11	臨床実習基礎(小児)、注意事項							
12	臨床実習基礎(皮膚科)、注意事項							
13	臨床実習基礎(婦人科)、注意事項							
14	臨床実習基礎(婦人科)、注意事項							
15	臨床実習基礎(眼科)、注意事項							
16	定期試験							
17	予備							
18	予備							
19	予備							
20	予備							
21	予備							
22	予備							
23	効果判定							
評 価								
出席と授業態度、試験等から総合的に評価する								
教 材								
経絡経穴概論 (東洋療法学校協会)、プリント資料								
担当講師						今井佳江		

科目	実践東洋医学臨床論			必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	時間 数 (単 位 数)	64(4)	
目 標	東洋医学的視点に基づいた臨床を学び、さらに臓腑と経絡についてその関係性や作用を理解しながら臨床に活用できる知識を修得する										
内 容											
1	東洋医学の概要について	17	足の太陽膀胱経その1(流注、部位、取り方、注意)								
2	東洋医学の健康観と疾病観	18	足の太陽膀胱経その2(流注、部位、取り方、注意)								
3	経絡経穴と臨床への活用	19	足の太陽膀胱経その3(流注、部位、取り方、注意)								
4	東洋医学と経絡経穴について	20	足の太陽膀胱経その4(流注、部位、取り方、注意)								
5	経絡経穴の要穴・骨度法	21	まとめと確認テスト								
6	督脈について	22	足の少陰腎経(流注、部位、取り方、注意点)								
7	任脈について	23	手の厥陰心包経(流注、部位、取り方、注意点)								
8	手の太陰肺経(流注、部位、取り方、注意点)	24	手の少陽三焦経(流注、部位、取り方、注意点)								
9	手の陽明大腸経(流注、部位、取り方、注意点)	25	まとめと確認テスト								
10	足の陽明胃経(流注、部位、取り方、注意)	26	足の少陽胆経その1(流注、部位、取り方、注意点)								
11	足の陽明胃経(流注、部位、取り方、注意点)	27	足の少陽胆経その2(流注、部位、取り方、注意点)								
12	まとめと確認テスト	28	まとめと確認テスト								
13	手の太陰脾経(流注、部位、取り方、注意)	29	足の厥陰肝経(流注、部位、取り方、注意点)								
14	手の少陰心経(流注、部位、取り方、注意点)	30	奇経八脈、奇穴(流注、部位、取り方、注意点)								
15	手の太陽小腸経(流注、部位、取り方、注意)	31	経絡経穴の現代的な研究								
16	定期試験	32	定期試験								
評 価											
出席と授業態度、試験等から総合的に評価する											
教 材											
経絡経穴概論(東洋療法学校協会編)の教科書、プリント											
							担当講師	今井佳江			

科目	東洋医学総合論			必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)	
目 標	東洋医学概論で学習した内容の理解を深め、組織・器官の作用を理解する。										
内 容											
1	東洋医学の特徴	東洋医学の沿革									
2	〃	人体の見方・東洋医学的治療									
3	〃	日本の東洋医学の現状									
4	生理と病理	生体物質と神（精・気）									
5	〃	生体物質と神（血・津液）									
6	〃	生体物質と神（神）									
7	〃	人体における陰陽									
8	〃	蔵象学説（臓腑）									
9	蔵象	蔵象学説（蔵象学説の要点）									
10	〃	五臓（肝系統）									
11	〃	五臓（心系統）									
12	〃	五臓（脾系統）									
13	〃	五臓（肺系統）									
14	〃	五臓（腎系統）									
15	〃	五臓の相互関係									
16	効果判定										
評 価											
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある											
教 材											
東洋医学概論 医道の日本社											
							担当講師	今井佳江			